



■ 臨地実習の今後について考える会 終了報告 ■

令和 7 年 3 月 12 日（水）に、「臨地実習の今後について考える会」を Zoom にて実施しました。本会は、北海道の養成校の教員、臨地実習受入施設の責任者または臨地実習指導者、北臨技の理事を対象に参加を募集し、当日は全道各地から 76 名の参加がありました。

会に先立ち早坂会長より挨拶があり、今回のガイドラインの変更に伴う養成校や実習受入施設での苦労や問題点について、日臨技でも今後対応していく必要性を認識している旨の説明がありました。

「臨地実習ガイドライン 2021」のポイントについての説明の後に、参加者による事前アンケートの集計結果を提示しながらディスカッションを実施しました。

ガイドラインの評価基準書に対しては、「評価項目が多い・細かい・複雑」「基準が適切ではない」「同じような評価内容が多い」といった意見は、養成校、実習受入施設共通の問題点である

ことが明らかとなりました。また、養成校からは、臨地実習前の技能習得到達度評価において客観的評価を行うためには養成校内の指導者ではなく外部の第三者による評価を実施したいと考えており、北臨技に対して今後その調整をお願いしたいとの要望がありました。

その他に、臨地実習単位の設定（1 単位当たりの時間）や、養成校間で実習期間が重複しないよう調整してほしいなどの要望、必ず見学させる行為の評価内容や評価基準についての問題点に関する意見をいただきました。

会の閉会にあたり品川副会長より、ガイドラインで規定された実習項目（各行為）については法律で定められており変更不可であるが、評価基準については変更可能であり、現在、日本臨床検査学教育協議会や日臨技で変更に向けての動きがある旨や、今後に向けて養成校と受入施設の連携を密にしていく必要性についてお話いただきました。

今回、臨地実習ガイドラインが改訂されたことを受けて、養成校・実習受入施設を交えた意見交換会を初めて試みましたが、北海道の臨地実習をより良くしていくためにも、今後もこのような会を継続していく必要性を感じました。最後に、ご参加くださいました皆様に改めて感謝いたします。

（北臨技組織対策部長 田中謙次）



◆ 第 2 回北臨技接遇研修会 終了報告 ◆

令和 7 年 2 月 8 日（土）に札幌医学技術福祉歯科専門学校を会場としてお借りし、昨年度より実施している北臨技接遇研修会を今年度も第 2 回として開催しました。昨年の参加者のアンケートより好評であり、「医療接遇」と「患者移乗」の内容に絞り、今年度は両テーマにおいて 60 分の実技時間を設け、参加者の方に実際に体験・経験していただくことでより習得しやすい研修会を企画しました。全道各地より 12 名の参加をいただき、参加者の 6 割近くが 20 代～30 代と若手技師の参加が目立ちました。また、参加のきっかけとして、病院や上司からの勧めという方もおられ、接遇研修会開催のニーズも感じることができました。

講演・実技 1 の藤部技師から「医療ホスピタリティ接遇検定」の内容に沿って、接遇マナー 5 要素（笑顔・挨拶・身だしなみ・言葉と態度・気付きと配慮）のバランスや医療現場でのコミュニケーションスキル（傾聴・伝え方・相手の心を動かす・クレーム対応）等についての説明と、グループワークでの実践でその重要性についてご教授頂きました。

講演 2 では、理学療法士の岡田先生より、障害者に対する合理的配慮についてご説明いただき、疑似体験セットを用いて参加者が片マヒの体験をすることで、障害者の目線から合理的配慮の必要性について学ぶことが出来ました。また実技 2 では、ベッドから車いすへの患者移乗について、一つ一つの動作に焦点を当ててわかりやすく教えて頂きました。本研修を通して、今回のテーマである「医療現場での対応力・患者移乗のスキル向上」に繋がる非常に有意義な時間であったと感じました。

アンケート結果では、参加者全員から「大変満足」「満足」の回答が得られました。また、現場での実践で役に立つかの問いについても、全ての講演・実技において役に立つとの回答が得られました。感想では、「患者視点で移乗において大事なことを知れた」、「接遇講習では傾聴の重要性を改めて感じた」など参加者にとって「勉強になった」との回答が目立ち、本研修会が充実したものであったことを物語っていました。

最後に、本研修会に参加された皆様、開催にあたりご準備いただきました講師の皆様および実務委員の皆様に改めて感謝いたします。

（北臨技組織対策部長 田中謙次）

◆ 第 2 回 北臨技接遇研修会 感想 ◆

医療接遇の研修では、医療におけるホスピタリティについて、即実践できる内容を沢山教えていただきましたが、中でも藤部先生が述べられていた「医療接遇に正解はない」という言葉が印象に残っております。その時々状況をまずは五感を使って把握し、相手にとってどのような対応が最適かということ意識して、より良い接遇ができるよう努めようと思いました。

移乗介助の研修では、半側麻痺の体験ができる「まなび体」を装着し、立つ・座るなど基本的な動作を体験させていただきました。麻痺による体幹の不安定さを補うために、反対の手足も棒のように力が入ってしまい想像以上の不自由さを感じました。また、移乗介助の実習では、人間に共通する体の仕組みを理解し、患者さんの持つ能力を最大限生かすことが大切であると学びました。介助される側・する側の双方にとって、より安心で自然な介助になるよう、早速実践してみようと思いました。

本研修の講師の先生方、また企画をしていただいた運営の方々に感謝いたします。

（北海道がんセンター 泉 奈々花）

◆ 新社会人の皆様、就職おめでとうございます ◆

1 日も早く職場環境に慣れるよう、頑張ってくださいね！先輩方々は新人さんの技師会への入会のサポートをお願いします！

もちろん北臨技事務所にお電話をいただいても対応いたしますよ！
北臨技事務所
011-786-7071

